資料２

（総括）

「ＡＰＥＣエネルギー大臣会合」に係る評価と今後の展開

１　コンベンション機能の強化

（１）コンベンションに係る人材育成・組織づくり

宿泊、レセプション、サイトツアーなど、国際会議の開催に当たっては、広域で開催することが多いため、県内各施設のサービス・機能や県内の観光・産業に精通し、総合的にプロデュース、提案できる人材を育てていくことが重要。ホテル、輸送機関、観光業者など、オペレーションに実績と経験がある民間機関が集まり組織化することも必要

（２）外国人向けサービスの充実

２泊３日する各国政府代表団が多かったが、長期滞在の場合にも満足できるサービスの提供が必要。外国語で接客できる飲食店の情報収集や外国語での観光ガイドなど、外国人に常時提供できるサービスを、日常から構築しメニュー化しておくことが必要

宿泊施設、飲食店、土産物屋、輸送関係者など、あいさつ程度の語学力は必要。語学力や基本的マナーを身につけるための「おもてなし講座」を継続実施

（３）福井の独自性を活かした誘致活動

国際コンベンションの誘致に際しては、ＡＰＥＣ開催の実績に加え、食材、伝統文化、伝統工芸、温泉など福井ならではの素材や魅力をアピールし、「福井ではこういうおもてなしができる」と、ソフト面を強調して売り込むことが重要

食材を供給する農業者や漁業者、料理を盛る器や箸などを製作する伝統工芸産地の職人など、福井の持てる力を結集することが、福井らしいおもてなしにつながり評価になる。そのためのネットワークづくりとＰＲが必要

２　国際的なネットワークの拡充

（１）ＡＰＥＣ参加国・地域等との交流拡大

ＡＰＥＣ参加国大使によるリレー講演会や、ＡＰＥＣ開催によりつながりのできた各国・地域の閣僚や大使との交流を継続。関係団体の協力を得て、観光、経済、文化など、様々な分野での交流を拡充する必要

（２）グローバル社会で活躍する人づくり

中学生による「ＡＰＥＣジュニアフォーラム」の学習・発表を通じ、子どもたちが「日本と世界のつながり」をより意識できるようになったなどの教育効果があった。「国際教育」や「環境・エネルギー教育」などを継続・拡充し、今後のグローバル社会をリードする人づくりを進める必要

３　低炭素社会の実現を目指す環境・エネルギー政策の推進

（１）ゼロエミッション・エネルギーの導入促進

ＡＰＥＣエネルギー大臣会合で採択された「福井宣言」では、原子力や再生可能エネルギーなど、二酸化炭素排出がゼロに近いエネルギー（ゼロエミッション・エネルギー）の普及促進が示された。開催地である福井県としても、低炭素社会の実現に向け、効率のよいクリーンエネルギーの普及促進を一層進める必要

（２）アジアにおける原子力人材育成への貢献

本県の進める「エネルギー研究開発拠点化計画」に基づき、アジアをはじめ世界の原子力発電所を安全かつ効率的に運転するため、技術開発や人材育成に積極的に貢献していくことが重要。平成２３年４月に設置する「国際原子力人材育成センター」を中心に、各国の研究者・技術者を受け入れ、優秀な原子力人材を輩出

（個表）

「ＡＰＥＣエネルギー大臣会合」に係る評価と今後の提案など

＊以下の内容は、APEC 終了後に、推進協議会構成団体に対するアンケート調査(12 団体から回答)および、施設関係者や関連事業関係者、その他関係者からの聞き取り調査(7 関係者)の結果の概要をまとめたものです。

≪開催推進協議会の構成団体≫

①　関連事業や会合支援事業などについて

・「ふくいＡＰＥＣフェア」は、天候にも恵まれ一万人を超える来場者があった。また、「ＡＰＥＣ出前講座」や、「ＡＰＥＣ給食」などを通じて、小学生がＡＰＥＣや環境エネルギーについて楽しく学ぶ機会を提供できた。（福井市）

・「あじさい」の植栽展示、ホームページの拡充、県外記者への観光情報が入ったＵＳＢメモリーの配布、エクスカーションなどにより、市のＰＲにつながった。（福井市）

・１９日の「プレスミニツァー」について、当日のキャンセルが出て１２人の参加に留まった。多くの参加者を得るためには、会合日程に公式行事として組み込んでもらうといった方法もあったのではないか。（福井市）

・「みんなで体験ＡＰＥＣ」は、幅広い年齢層の方々に、ＡＰＥＣやエネルギー、環境問題に理解を深めてもらうことができた。
　特に、「子どもエネルギーサミット」で、生産地（嶺南）と消費地（関西、中京）の子どもが集まり交流できたことが大きい。（敦賀市、敦賀商工会議所）

・一般向けの次世代自動車試乗体験が、突風注意報により中止となったことは、一般の方々が次世代のエネルギーを実感できる素晴らしい機会であっただけに非常に残念だった。
（敦賀市、敦賀商工会議所）

・小学生エネルギークイズ王選手権大会は、県下１２１校からの参加があり、敦賀市の「みんなで体験ＡＰＥＣ」とも連携でき、盛況のうちに開催することができた。（関西電力、北陸電力、日本原子力発電）

・「ＡＰＥＣ参加国大使によるリレー講演会」は、外国の大使の話を聞く機会などは滅多にないので、各校の生徒にとって貴重な経験になったと思う。（高等学校長協会）

・中学生が行った「ＡＰＥＣジュニアフォーラム」は、事前学習する期間が短かったにもかかわらず、３月１８日の発表会では内容が良く仕上がっていた。歓迎レセプションでの提言も

堂々としており、非常に好評であった。（中学校長会）

・もっと外国人へのインセンティブを打ち出すべきではなかったか。例えば、恐竜博物館、養浩館、朝倉氏資料館などの文化施設の無料券を出して会合参加者の来館を促すとか、あるいは、福井の食を提供する飲食店とタイアップしてサービス券を出すとか、そういう仕組みづくりをしてもよかった。（福井観光コンベンション協会）

・関係施設への電力の安定供給を行うべく、対策本部を設置し２４時間体制で対応。ＡＰＥＣ会合を通して、国際的な大規模イベントにおける電力の安定供給の体制を確立することができた。（北陸電力）

②　今後の国際会議の誘致や運営に当たっての提案など

・多種多様な関連イベントを一年間にわたって開催したことで、多くの県民、市民に「福井市が国際会議を行える都市」という自信とイメージをつくりあげることができたのではないか。（福井商工会議所）

・歓迎レセプションを開催することで、地元出席者が、国際会議を福井で開催する実感を持つことができたと思う。ただ、レセプション会場での各国政府代表団との交流は十分ではなかったように見えた。地元出席者のホスト役としての意識を高める工夫が必要だったように思う。（福井商工会議所）

・予想した以上に２泊３日する各国政府代表団が多かった。今後の国際会議の誘致では、２泊３日の滞在でも満足できる「おもてなしの提供」が必要。外国語で接客できる飲食店の情報収集や外国語での観光ガイドサービスなど、いつでも提供できるサービスを日常からメニュー化していくことが必要と感じた。（福井商工会議所）

・今回は、公式に各国政府代表団が「あわら温泉」を利用する機会はなかったが、温泉や温泉文化は、外国人が日本をイメージするものの中で、かなりの地位を占めていることから、今後、国際会議を誘致する際には、是非、あわら温泉の魅力もＰＲしてほしい。
（あわら市）

・サイトツアーや歓迎昼食会において、警備上の問題等から仕方がないことではあるが、一般市民との交流が少なかった。（敦賀商工会議所）

・今回のＡＰＥＣの開催実績を、今後のコンベンション誘致活動に最大限生かしていきたい。誘致活動のなかで、食、観光、記念品など、おもてなしの分野で福井の優位性を強力に訴えていける。ＡＰＥＣ開催は、一つのブランドになる。（福井観光コンベンション協会）

≪ホテルフジタ福井≫

・国際会議では、やはり「会合参加者の利便性」を第一に考えることが基本。利用する施設をフジタホテル、商工会議所ビルといった近距離に集めたことは正解であった。一つの施設で無理なら、オール福井で開催すればいい。ホテルが複数連携して、宿泊施設として提供することもあってもよい。

・国際会議では、すべての面で非常に高度なサービスが要求される。問題や変更が発生した時のスピーディーな修正も要求される。やはり実績と経験のあるホテルで開催（任せる）する方がよい。国の迎賓館でも、施設は国が管理しているが、サービスの提供は帝国ホテルやホテルオークラなどに任せている。

・今後、国際会議に対応していくためには、サービス・食事・観光などの実務を総合的にプロデュースする機能を県内で育てることが必要。ホテル、輸送機関、観光業者など、実際のオペレーションに実績と経験がある民間の機関（人）が集まることが必要。

・おもてなしでも、英語力は求められる。あいさつ程度の英語力は必要不可欠。英語力を高める教育プログラムのほか、これからは中国語のプログラムの強化も必要になってくる。

・ＡＰＥＣでは、福井らしいおもてなしは機能していたと思う。着物を着た女性が出迎えたり、福井の食材を使った料理の提供、福井の和菓子の提供、インフォメーションコーナーでの福井の紹介など、心に残る対応があった。参加者が満足して帰ったかどうかは帰る際の顔つきでわかるが、みんな満足した顔つきだった。

・外国人に飲食店を紹介する際には、「英語力があること」、「洋式トイレがあること」、「クレジットカード支払いができること」の三つの要素が必要。店舗側にもこれらの環境整備が必要。

・県民、市民全体の盛り上げムードが大切。今回のＡＰＥＣでは、初めての国際会議にもかかわらず、歓迎ムードが高まっていたと思う。

・コンベンションの誘致に際しては、施設（ハコ）を売り込むほか、福井では「こういうことができますよ」「こういうおもてなしを考えていますよ」と、ソフト面を強調して売り込んでいったらどうか。例えば、食材、永平寺など、福井には他県では提供できないものが多くあると思う。

≪開花亭≫

・政府主催夕食会の準備のなかで、福井の食材は日本でも最高レベルにあることを実感。
また、その食材を供給してくれる農業者や漁業者、料理を盛る器や箸などを製作してもらった伝統工芸産地の方々の協力があってできたもの。
「福井らしいおもてなし」とは、それらの福井の持てる力を結集すること。それがお客様の評価につながる。福井には良いものがたくさんあると思う。

・ハード面で比較すると、東京なら普通にできても福井では簡単にはできないことが多い。また、年に一回使うかどうかの施設に投資できないということもある。ハード面で競っても仕方ない。ソフト(おもてなし)はみんなで考えて提供できる。

・外国からの参加者と、うまくコミュニケーションができるか、その人が国際感覚を身につけているかが大事であることが改めて実感。従業員のなかに、メキシコ、アメリカ留学経験者がいて、接遇に非常に役立った。

・国際コンベンションの誘致のためには、県全体の課題として、コミュニケーションスキルが不足していることが課題だと思う。県内の若者のなかにも、留学経験者がいるはず。今後の国際コンベンション誘致を考えるうえで、こうした人たちの活用を考えたらどうか。

・福井には、国際会議における人の流れや動きをコーディネートできる人がいないことが課題ではないか。国際会議ではVIPはこう動くからこちらの宿泊施設がよいとか、地元商店街の対応はこうした方がよいとか、ハンドリングする人が育ってこないと、コンベンション都市として上手く機能しないと思う。

≪福井市片町商店街振興組合≫

・ＡＰＥＣ期間中は、一部の飲食店には外国人が来店したようだが、商店街全体が賑わうということはなかったと思う。国際会議であり、警備が厳しかったので無理もないのではという声も聞いている。しかし、外国人の来店を期待していた飲食店や土産物屋も一部にはあったようだ。

・５月２７日の「おもてなし講座」を聞いて、英語表記のメニューづくりなど、事前準備が必要なことがわかった。これから中国からの観光客が増えてくるということであり、今回に限らず、今後、海外からの観光客にも対応していかなければならない。「誘客」だけではなく、受け皿のレベルアップのために「おもてなし講座」のようなものも重要である。

・コンベンションは、飲食店や土産物屋にとっては経済効果があるとともに、地元の認知度アップにもつながる。

・おもてなしとは、気持ち良く滞在してもらい帰ってもらうこと、また来たいと思ってもらうことだと思う。観光地の案内に語り部を用意するとか、小さなことで満足することが多いのではないか。

≪福井県タクシー協会≫

・各社から聞くと、ＡＰＥＣ期間中は、ホテルから出た外国人は少なく、タクシー利用は多くなかったと聞いている。

・外国人との会話を心配して、自分で簡単なマニュアルを用意した運転手もいたというが、利用がなかったため、期待したほどではなかったようだ。

・これから外国人のお客さんが増えると思うし、その場合にどう対応するかは業界の課題だと考える。その意味で、今回の「ＡＰＥＣ」、「おもてなし講座」は業界が変わっていくキッカケとなった。あいさつ程度の英会話は必要。機会があれば勉強していきたい。

≪ＡＰＥＣジュニアフォーラム参加校≫

（全体意見）

・教科書を使った授業と比べ、短期間ではあったが、集中的にエネルギー・環境問題に触れることができた。

（担当教諭から見た教育上の効果）

・今回、ＡＰＥＣの活動を学んだことで、「日本と世界のつながり」をより意識できるようになったと思う。日本のことだけを考えるのではなく、地球全体のことを考える機会として有意義であったと思う。

・エネルギーについて学習する中で、地元の原子力発電にも、より一層関心が持てた。エネルギーの大切さも学習し、学校や家庭でも省エネルギーを実践できた。生徒の普段の学校生活が変化した。（電気消し、古紙の再利用、キャップ集めなど）

・参加エコノミーの学習をする中で、担当エコノミーの留学生とも交流ができ、文化の違いも実際に感じることができた。

・たくさんの人の前で発表する機会に恵まれ、プレゼンテーション能力が高まり、言葉の大切さや発表の難しさを学ぶなどの、すばらしい体験ができたと思う。

（生徒や保護者の意見と感想）

・ＡＰＥＣジュニアフォーラムに参加したことによって、他人に付いていくばかりだった子供が最近は自信がついたようで、やる気を出して積極的になった。このような機会を与えてもらって感謝しているし、こういう機会をもっと増やしてほしい。（保護者）

・エネルギー環境問題について、興味関心の段階から、何とか自分の問題として解決策を考えていきたいし、何らかの取り組みをしたい。（生徒）

・自分たちで発表、提言させてもらえてうれしい。一年間で一番の思い出になった。（生徒）

・省エネの大切さを感じた。（保護者）

（「福井の子供たちへのメーセージ」に対する生徒の感想）

・いろいろな国の言語で書かれていたので、その国の文字に触れることができたとともに、主席代表の共通の願いとして「エネルギー・環境問題を解決したい」との思いが伝わってきた。

・各主席代表のあたたかい言葉がとても良かった。

（国際教育や環境・エネルギー教育の今後の展開に対する担当教諭の意見・感想）

・天然資源の枯渇や環境破壊など、未来に関して暗いイメージが持たれやすい。子供にとって、「未来は明るい」はずなのに、「未来は暗い」という教育はしたくない、一人ひとりの心がけや、科学技術の進歩によって、明るい未来があるという教育を行っていきたい。

≪福井の産業・技術展　出展企業≫

・燃料電池・二次電池コーナー、物産コーナーなど、福井県のアピールという意味ではよかった思う。今後も、このような際に、企業に販売促進のチャンスをいただくことは、是非ともお願いしたい。その際、来場者の確保についても配慮いただきたい。例えば、会場自体をアオッサのような、もう少し一般の人が来場しやすい場所にすることもよいかも知れない。

・来場者の皆様に弊社の技術について興味をもっていただき、県内企業に対する関心を、肌で感じる事ができた。改善点としては、より多くの来場者に来ていただくためにも、会場レイアウトを工夫することが大事と感じた。

・企業紹介コーナーに関しては、２日目の一般公開時に来場者が少なかったので、再度実施する場合には、改善の余地があると思う。

・各国政府代表団およびマスコミ関係者の見学は意外と少なかった。来場者の動線を考慮したレイアウトにするとよかったかもしれない。（展示されていること自体を知らなかった方もいたかも知れない。）

・歓迎レセプションで、壇上に上がった中学生が興味を持って当社の展示を見てくれたことは非常に良かった。

・基本的に良かったと思っている。あのような場で越前和紙を紹介できたことはいいことだ。また、多くの人に試しに紙漉きを体験してもらえたことも良かった。自分で漉いた紙を完成させて持って帰ってもらえるようにできるともっといいと思った。（福井県和紙工業協同組合）

≪通訳業務担当者≫

・海外事務所経験者ではあるが、長期間、英語に触れる環境になかったことと、準備期間が短かったため、英語を駆使するレベルに至らなかった。今後も国際会議の誘致を考えるならば、それを意識した組織的、継続的な人材育成が必要。（リエゾン）

・通訳業務に当たっては、業務内容を想定し、必要な英語力を見積もって人を手配すべきではないか。業務に要求される成果によっては、動員通訳ではなく、専門通訳を雇うのが適切な場合もあるのではないか。ただし、高レベルの成果を期待せず、歓迎のための手作り感の演出として、職員だけで通訳業務を行うというのも一つの考え方だと思う。
（小松空港案内所担当）

・地元出席者と各国政府代表団の方との通訳というよりも、ホスト役として各国政府代表団との話し相手の役割が多かった。地元出席者に各国政府代表団とのコミュニケーションを促すように誘導するのはなかなか上手くいかなかった。
　英語教員の通訳担当者は、各国政府代表団を接待していたし、福井の情報発信者としての機能は十分に果たしていた。（レセプション会場通訳）

・通訳という仕事をよく理解していなかったため、どこまでが通訳の仕事かわからず、説明者の通訳ではなく、外国人から直接聞かれたことについて知っている範囲で説明したりしていた。本来の通訳の形は、実際の業務ではあまりなかった。説明者との役割分担が必要。
（情報発信コーナー担当者）

・海外事務所経験者よりも、外国語に堪能な職員も大勢いるので、単純に駐在経験者だからといって割り振るのではなく、場面を考えて、希望や実力に応じて配置してほしかった。
（リエゾン）

・リエゾン業務には、担当国の政治・経済・社会情勢の把握と、会議スケジュールの詳細把握が必要と感じた。（リエゾン）

・伝統工芸の歴史的背景や専門用語が出てくると通訳は困難であったと思う。自分があまり知らないことがあり、うまく説明できないものがあった。事前に展示内容について、ある程度の情報があると良かった。（情報発信コーナー担当者）